



秋厚労ニュース

NO1808号

2017年11月30日
秋田県厚生連労働組合
秋田市山王5-4-2
TEL 018(864)3341
FAX 018(864)3349

茨城で 住民のつどい

去る11月17日（金）～19日（日）、茨城県土浦市で第34回全厚労医療研究集会が開かれ、秋厚労7人を含む139人が参加しました。

全厚労医療研究集会の3日目に

地域医療のあり方を考える

全厚労医療研究集会のメインテーマは「住民とともに協同組合医療運動を復興させよう」。厚生連医療のあり方を考える集会です。秋厚労の2016秋闘の経験に学ぼうと、今回は土浦市で開催しました。

1日目の全体集会では、京都大学の岡田知弘教授（自治体問題研究所理事）が「医療を国民の手に取り戻すために」と題し講演。安倍政権が進めているのは多国籍企業がもうかる国づくりだとし、「しかし地域を支えているのは中小企業、農家、協同組合

の人々。働く人々が崩壊すれば地域も崩壊する」と話しました。岡田さんは、各地の自治体が行っている、住民の幸福度を上げる地域づくりを紹介し、「色々な分野の人が一緒に運動しないと変えられない」と



岡田知弘教授

安心して住み続けられる地域を

3日目の午後「地域医療を考える住民のつどい in 土浦」が開かれ、県内外から155人が参加しました。最初に土浦協同病院「我（われ）がまま教室」

茨城県厚生連の赤字はつくられたもの

パネリストの山口不二夫教授（明治大学）は、茨城県厚生連の経営について「借金を返しつつあり、順調に回復していた」とし、経営者が人件費削減の根拠にした「赤字」は、つくられたものだったことを解説しました。その後、4人のパネリ

住民「必要な病院」

で、つどいが始まりました。実行委員会の福田会長は「いつでも病院にかかると当たり前前に思っていた」と話し、「職員・患者・労組が手を取り合っているのちを守るネットワークを土浦から県内に築こう。安心して住み続けられる地域づくりに、力を合わせていこう」と

呼びかけました。2日目からは4分科会に分かれて、各県の取り組みを交流しました。

全力で応援したい

参加した住民からも質問や発言が続々と出されました。「透析患者で、遠い病院にかかっている。年寄りも簡単にいける病院にしてほしい」「良くない評判もあるが、必要な病院。全力で応援したい」「建設費が200億円も超過するとは、計画がずさん。経営者は反省すべき」など8人が病院への思いを述べました。最後に会場全体で、今後も住民と職員が話し合う場を継続することが確認されました。



土浦協同病院「我がまま教室」のダンスを披露



つどいで発言する住民